

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	107人	社会	107人	数学	107人
	理科	107人	英語	107人		

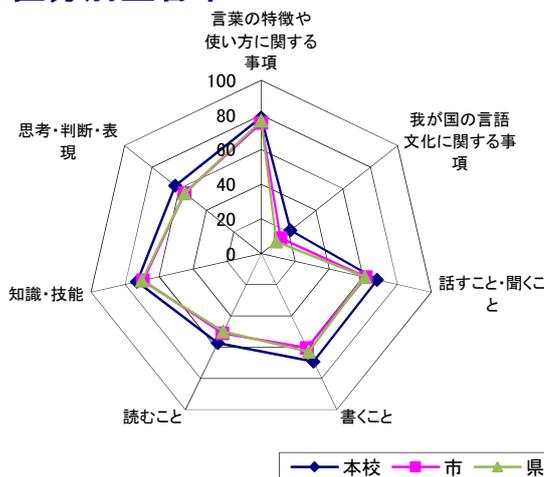
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立河内中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	78.6	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	21.5	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	68.2	61.6	60.9
	書くこと	69.2	60.4	62.9
	読むこと	57.4	51.0	49.9
観点	知識・技能	72.9	69.4	70.1
	思考・判断・表現	63.0	56.0	55.9



★指導の工夫と改善

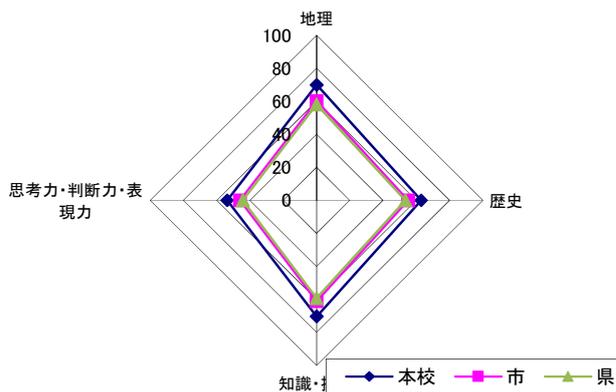
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、県平均を1.9ポイント、市平均を3.1ポイント上回っている。</p> <p>○漢字を読むことに関しては、どの問題においても100%に迫る正答率であった。また、文法に関しても単語や文節に対する理解もできており、県平均より5～6ポイント、市平均より8～9ポイント程度高い正答率となっている。</p> <p>●小学校で学んだ漢字を書くことに対しは、市平均を上回っているものの正答率が30%になっている。</p>	<p>・今後も言葉に関して、読みだけでなく書くことや意味をしっかりと捉えさせ、基礎の定着を図っていききたい。</p> <p>・漢字に関しては、日頃から反復学習を取り入れ、他の単元の中でも適切に使うことができる能力を育みたい。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、県平均を10.3ポイント、市平均を7.2ポイント上回っている。</p> <p>○完答できた生徒は21.5%であるが、解答欄Aの正答率に注目すると、49.5%であった。</p> <p>●解答欄Bに関しては県平均や市平均より約1ポイント以上上回ってはいるが、本校の正答率も3.7%に留まっている。</p>	<p>・古典においては、様々な文章に親しむ中で歴史的仮名遣いや古語の確認も取り入れていきたい。</p> <p>・文章を繰り返し読み込んでいくことで、現代の意味の違いや古典の基礎基本の定着を図っていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、県平均を7.3ポイント、市平均を6.6ポイント上回っている。</p> <p>○相手が話す内容を聞き取り、まとめた文として適切なものを選択することに関しては93.5%の正答率であった。</p> <p>●全ての条件に従い、自分の考えを書くことに関しては41.1%であった。また、無解答の割合も高く、16.8%に上った。</p>	<p>・普段の授業から相手が話す内容を聞き取り、重要だと思われる部分に対して、メモを取る習慣を付けさせていくことで、自分の考えをまとめる能力の定着に繋げていきたい。</p> <p>・相手の意見を踏まえ、自分の考え方を整理する場を意図的に設けていく。また、互いに意見を交流する場を提供することで、物事を多面的に捉えることができる広い視野を育みたい。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、県平均を6.3ポイント、市平均を8.8ポイント上回っている。</p> <p>○約7割の生徒は、指定された条件で文章を記述することができた。</p> <p>●読み取った内容や自分の考えを明確にして記述できた割合は約6割であった。また、条件に当てはまらない記述をした割合は、2割に上った。</p>	<p>・自分の考えを条件下で表現していくためにも語彙力や表現力を身に付けていく必要がある。他の領域と関連性をもたせ、「書くこと」の場の提供をしていきたい。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県平均を7.5ポイント、市平均を6.4ポイント上回っている。</p> <p>○文章中から適語を抜き出す問題や選択問題に関しては、正答率は約70%であった。</p> <p>●字数制限がある問題においては、県平均より11.5ポイント、市平均より10.2ポイント上回ってはいるものの他の問題よりも正答率が低くなっている。</p>	<p>・内容や要旨を正確に読み取り、簡潔にまとめていくために、文章中のキーワードや相違点、論点などを読み取る機会を増やしていきたい。</p>

宇都宮市立河内中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	70.0	60.1	58.1
	歴史	63.0	55.1	53.5
観点	知識・技能	70.4	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	53.7	46.0	44.3



★指導の工夫と改善

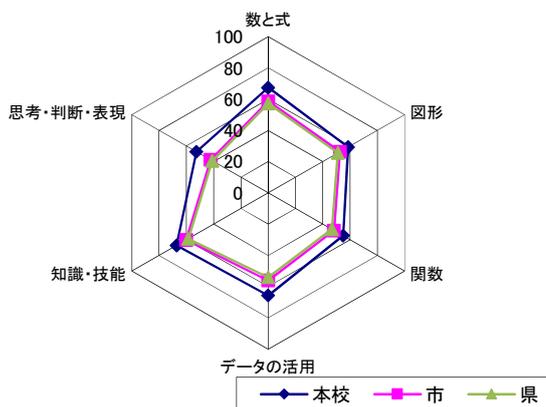
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>平均正答率は、県平均を11.9ポイント、市平均を9.9ポイント上回っている。</p> <p>○ほとんどの問題に関して、県・市平均共に10ポイント以上上回っている。特に、ヒンドゥー教の特徴と分布について理解しているかどうかについての問題では、県平均を20.1ポイント、市平均を17.1ポイント上回っている。</p> <p>また、亜寒帯気候の特徴について理解しているかの問題においても、県平均を18.0ポイント、市平均を14.9ポイント上回っている。</p> <p>●唯一、アフリカ州のモノカルチャー経済課題について、複数の資料から読み取ったことを関連付けて考察し、表現しているかどうかの問題が、県平均を2.3ポイント、市平均を1.0ポイント下回った。</p>	<p>・今後も基礎・基本的な内容をしっかり捉えさせ、理解力の向上に努めたい。</p> <p>・単元ごとに、レポートを書き、その内容について質疑応答をする学習活動を継続して行っている。この学習活動と、複数の資料等を関連付けたり、既存の学習内容と関連付けたりすることをとおして、特色や相互の関連等を考察する能力を育みたい。</p>
歴史	<p>平均正答率は、県平均を9.5ポイント、市平均を7.9ポイント上回っている。</p> <p>○ほとんどの問題に関して、県・市平均共に10ポイント近く、上回っている。特に、資料をもとに平城京から平安京に遷都したときの変化について、複数の資料を関連付けて読み取り、考察する問題に関して、県平均を15.8ポイント、市平均を15.1ポイント上回っていた。</p> <p>また、シルクロードを通じた東西交易について、複数の資料を関連付けて考察し表現する問題においても、県平均を15.6ポイント、市平均を13.4ポイント上回っている。</p> <p>●歴史において、市平均を下回った問題はなかったが、古代ギリシャの政治のしくみについての問題に関しては、県平均を1.6ポイント、市平均を2.5ポイント上回っただけであった。</p>	<p>・今後も基礎・基本的な内容をしっかり押さえ、理解力の向上に努めたい。</p> <p>・小学校社会科との接続を意識し、世界の歴史を背景に、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目させる学習活動を話し合い活動をとおして行うことで、それぞれの各時代の特色を様々な角度から大きく捉えさせる一助としたい。</p>

宇都宮市立河内中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	67.4	58.6	57.2
	図形	58.6	52.6	51.1
	関数	54.9	48.2	46.8
	データの活用	65.7	56.1	54.1
観点	知識・技能	67.2	60.2	58.6
	思考・判断・表現	52.6	42.3	40.9



★指導の工夫と改善

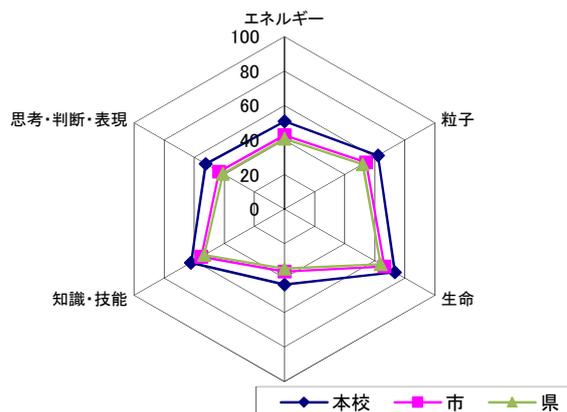
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は、市の平均より8.8ポイント高い。</p> <p>○「1次方程式を解く」の問題では、宇都宮市の平均正答率より12.7ポイント、「絶対値について」では11.3ポイント、「比例式について」では18.3ポイント、「適切な1次式を立式」では15.9ポイント高い。</p> <p>●「正の数と負の数の大小関係について、正しいものを選ぶ」では、市の平均正答率より2.3ポイント低い。</p>	<p>・基本的な計算問題の正答率は高く、定着しているようである。しかし、対応するものを選ぶ問題や数学的に説明するような問題では正答率が下がる傾向がある。特に集合に関しては、苦手意識をもっている生徒が多い。</p> <p>・今後は、ドリル学習だけではなく、計算方法や計算順を説明させるような授業展開を心掛け、筋道を立てた考え方の育成や式を用いた説明をとおして言語活動の向上につなげていきたい。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より6.0ポイント高い。</p> <p>○「垂直二等分線の性質を理解し、作図する」の問題では、宇都宮市の平均正答率より12.5ポイント、「半径が等しいおうぎ形と円の面積の大きさについて、何倍であるか考える」では7.1ポイント高い。</p> <p>●市の平均正答率より低い問題はなかったが、円が関わる問題に苦手意識をもっている生徒が多い。</p>	<p>・面積や体積を求める問題に関しては、おおむね理解できており、正答率も高い。しかし、円の面積を求めて比べる問題などにおいては、まだ理解が不十分である。</p> <p>・今後は、生徒の理解度に応じた学習プリントの作成や活用、自己の理解度に応じたプリントを選択できる能力、生徒が分かったと実感できる授業展開の工夫などを心掛けていきたい。</p>
関数	<p>平均正答率は、市の平均より6.7ポイント高い。</p> <p>○「与えられた表をもとに、xの値からyの値を求める」の問題では、宇都宮市の平均正答率より11.5ポイント、「与えられたグラフから、答えを求める」では10.7ポイント高い。</p> <p>●「与えられた表をもとに、yがxに比例している表を選ぶ」では、市の平均正答率より0.3ポイント低い。</p>	<p>・関数は4つの領域の中で最も苦手意識をもつ傾向が強い。「関数とは何か」、「比例と反比例の違い」、「グラフを読み取る力・グラフを利用して考える力」など、関数は今まで学んだ知識を様々な場面において活用する能力が必要である。</p> <p>・今後は、公式を利用して形式的に答えが求められ、正解かどうかが目次の中心ではなく、どのような過程を経て正解が求められたのかを説明するような授業を心掛けたい。タブレットを活用することで視覚的に理解することをとおして苦手意識の克服につなげていきたい。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より9.6ポイント高い。</p> <p>○「度数分布表から相対度数を求める」の問題では、宇都宮市の平均正答率より20.7ポイント、「階級の幅が異なるとヒストグラムの形が異なることを理解している」では12.1ポイント、「必要なデータを選ぶ」では17.7ポイント高い。</p> <p>●「度数分布表から、ある階級の累積度数を求める」では、市の平均正答率より2.0ポイント低い。</p>	<p>・学年の最後の単元であるため、理解が定着するまで繰り返し復習する機会が少なくなってしまう傾向がある。また、他の単元との関わりも多くないため、多くの問題に取り組む経験が計算分野に比べて圧倒的に少ないのが現状である。</p> <p>・今後は、教科書の問題だけでなく、生活の中の事柄を相対度数や累積度数、最頻値などを使いながら考え、覚えるだけの授業ではなく活用する授業を試みていきたい。</p>

宇都宮市立河内中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	50.9	42.8	40.8
	粒子	62.1	54.2	52.0
	生命	73.3	66.4	63.8
	地球	43.7	36.2	34.5
観点	知識・技能	62.1	55.2	53.3
	思考・判断・表現	52.3	43.5	41.0



★指導の工夫と改善

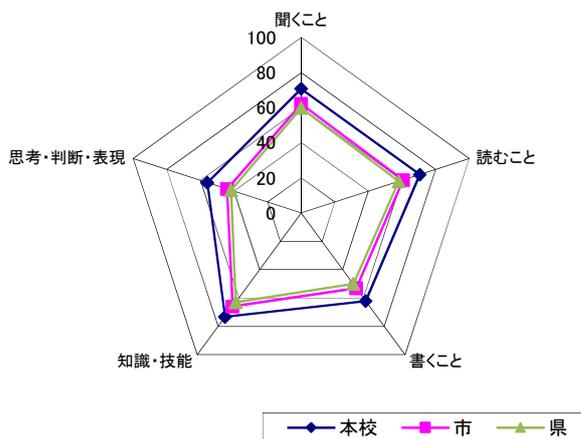
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○2つのばねの長さが等しくなる時のばねに加えた力を求める問題では、市の平均を12.3ポイント上回り、高い理解を示している。 ●光の問題で、スクリーンに映っている像を選択する問題では、市の平均を2.8ポイント下回っている。	・光など、実際に目ではわからない現象についての理解度があまり高くない。ICTを活用したり、実験条件を工夫するなどして、視覚化を図ることで理解の深化を図りたい。
粒子	○密度を求める式と金属の名称を選ぶ問題では、市の平均を12.5ポイント上回り、高い理解を示している。 ●二酸化炭素を発生させる操作を選ぶ問題では、市の平均を0.2ポイント下回っている。	・計算などの訓練が必要な学習内容については高い理解が見られる。それに比べて、実験操作のポイントや、実験によって見られる反応への理解はあまり高くない。生徒実験もしくは演示実験として実体験させることで、理解を深めさせたい。
生命	○分類の基準にした植物の特徴を選ぶ問題では、市の平均を14.5ポイント上回り、高い理解を示している。 ●スケッチのやり方についての正答率が市の平均を4.6ポイント下回っている。	・分類や名称など、基本的な学習内容は身に付いているが、実験の技能については課題が見られる。実際の観察操作をとおして、実験のポイントを確認し、なぜ重要なのかを理解させるような指導を心がけたい。
地球	○P波の速さを求める問題では、市の平均を12.6ポイント上回り、高い理解を示している。 ●震源からの距離を求め、その理由を答える問題では、正答率は13.1%であり、理解度は低い。	・速さを求める問題の正答率に対して、距離を求める問題の正答率が低いことから、授業中の演習を増やし、ワンパターンの計算に慣れるだけではなく、様々なパターンの問題に触れることで理解を深めさせたい。

宇都宮市立河内中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	70.7	62.0	59.7
	読むこと	70.6	60.6	58.0
	書くこと	62.3	53.1	50.1
観点	知識・技能	73.3	66.0	63.0
	思考・判断・表現	55.8	44.1	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>聞くことの問題の平均正答率は70.7%であった。本校は市全体と比較し、8.7ポイント、県全体では、11ポイント上回っている。</p> <p>○すべての問題において、市の平均及び県の平均を大きく上回っており、8～9割の正答率の問題が多い。</p> <p>●要点を聞き取り考える問題と、英文を聞き取り、たずねられたことに対して自分の考えを簡潔に答える問題については、市全体、県全体より正答率は上回っているが、他の問題に比べると課題が見られる。</p>	<p>・1年次から、教科書のまとまりのある文章を聞き取り、Q&Aで理解を確認する基本的な問題に丁寧に取り組んだり、シャドーイングの練習も行っている。今後も継続し、力をつけていきたい。</p>
読むこと	<p>読むことの問題の平均正答率は70.6%であった。本校は市全体と比較し、10ポイント、県全体では、12.6ポイントも上回っている。</p> <p>○英文から必要な情報を探し、読み取る力にとっても優れており、語彙力が定着していることも成果の一因と考えられる。</p>	<p>・必要な情報を読み取るための、基礎的な語彙や表現が身に付いているので、読み取りで力を発揮することができた。教科書の単語を中心に、定着を図りながら、生徒が意欲的に読むことができる資料や教材を今後も提示していきたい。</p>
書くこと	<p>書くことの問題の平均正答率は62.3%であった。本校は市全体と比較し、9.2ポイント、県全体では、12.2ポイント上回っている。</p> <p>○全体的に非常に優れており、特に自分の町について紹介する文を書く問題においては、つながりを意識した英文を書く力が身に付いている。1年次からタブレット端末を使用して作文に数多く取り組んできた成果であると考えられる。</p> <p>●三人称単数現在時制のcanを使った肯定文を正確に書く問題は市、県全体に比べて唯一低かった。英単語のつづりに課題が見られる。</p>	<p>・自分の考えを相手に述べる練習として、スモールトークや、トリオトークに2年生から取り組み始め、成果が出てきている。ユニバーサルデザインプレゼンテーションの準備や、3年生の修学旅行につながる世界遺産の紹介の作文を予定しているので、引き続き力をつけていけるよう指導していく。</p>

宇都宮市立河内中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定的回答は、県・市の割合とさほど変わらないが、「家で、学校の宿題をしている」「授業の予習をしている」「テストで間違えた問題について勉強している」「学校や塾の宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答は、県・市より高かった。特に、「授業の予習をしている」の肯定的回答は、県割合より26.3ポイント、市割合より23.9ポイント高く、次いで「自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答は、県割合より14.1ポイント、市割合より12.5ポイント高かった。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思う」「不思議だな、なぜだろうと感じる」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定的回答は、県・市より7ポイント以上高かったことから、学習に対して非常に高い意欲をもっていることが分かる。また、「本やインターネットを利用して勉強に関する情報を得ている」の肯定的回答が、県割合より13.6ポイント、市割合より12.9ポイント高く、タブレット等を有効に活用して学習している様子が伺える。

○「テレビのニュースやインターネットのニュースを見ている」「地域や社会で起きている問題やできごとに関心がある」「自分のよさを人のために生かしたい」「自分のもっている能力を十分に発揮したい」の肯定的回答も、県・市より上回っていることから、様々な事象に興味関心があり、且つ、自己の良さや能力を将来生かしたいと前向きに考え、日々の生活を送ろうとしていることが分かる。

●「難しい問題にであつと、よりやる気がでる」では、「はい」「どちらかといえば、はい」の回答が、県割合より4.3ポイント、市割合より1.6ポイント下回っている。「どちらかといえば、いいえ」の回答は、県割合より9.4ポイント、市割合より7.1ポイント下回っている。

ところが、「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦している」では、「はい」「どちらかといえば、はい」の回答が、県割合より4.5ポイント、市割合より4.9ポイント上回っている。学習に関しても正答を追求するだけでなく、誤答からも学びを得るような授業作りが必要である。

●「ふだん、1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか」では、「10時間以上」「9時間以上、10時間より少ない」「8時間以上、9時間より少ない」の回答が、県割合より6.7ポイント、市割合より5.3ポイント下回った。「7時間以上、8時間より少ない」「6時間以上、7時間より少ない」の回答は、県割合より8.6ポイント、市割合より7.3ポイント上回った。

「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか」では、「4時間以上」「3時間以上、4時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」の回答が、県割合より18.3ポイント、市割合より18.5ポイント下回った。「1時間以上、2時間より少ない」「1時間より少ない」は県割合より15.7ポイント、市割合より16.7ポイント上回った。

また、「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」では、「4時間以上」「3時間以上、4時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」の回答が、県割合より21ポイント、市割合より21.9ポイント下回った。「30分以上、1時間より少ない」「30分より少ない」「携帯電話やスマートフォンを持っていない」が県割合より21ポイント、市割合より21.7ポイント上回った。睡眠時間が短いのは、ゲームやスマートフォン等の使用による訳ではなく、塾や習い事を含めた学習にあてている時間が多いと考えられる。

以上の結果から、学習内容を単に理解しているかだけでなく、それらを生きて働かせてどう使うか、どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るかということも視野に入れさせながら、知的好奇心を高めるような取組を考えていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動の工夫	①話し合い活動では、自分の考えを伝えるだけでなく、他者の意見をよく聞くことにも重点を置き、自分の考えと対比させるなどして、自分の考えを深めさせる。 ②ICT機器を活用した言語活動の充実。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対する肯定的回答が93.5%となっており、市を8.5ポイント、県を7.1ポイント上回っている。 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」に対する肯定的回答が97.2%となっており、市を2.3ポイント、県を1.4ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「次の教科などの学習は好きですか。総合的な学習の時間」に対する肯定的回答が71%で、市・県よりも下回っている。	・地域理解や郷土への愛情を深める授業の工夫改善に努める。	・学習のまとめ等において、ICT機器の活用を積極的に取り入れる。 ・体験学習を通じた授業の工夫や改善。 ・ゲストティーチャーによる授業の実践。